

第20回『銀色のシャープペンシル』

第20回目の道德では、友達のシャープペンシルを拾って自分のものにしてしまったことを言い出せなかった「僕」の物語を通して、自分の心の弱さを見つめ、改めることの大切さについて考えました。「僕」は掃除の途中で銀色のシャープペンシルが落ちているのを見つけ、軽い気持ちでポケットにしまいます。後日、そのシャープペンを使っていると、卓也が「僕のじゃ……。」と言いかけます。「これ卓也のだったのか」と返そうとした瞬間、健二に「盗ったのか」と言われ、とっさに「自分のだ」と言ってしまう。「僕」は、放課後、誰もいなくなってから卓也のロッカーにシャープペンを突っ込みます。家に帰っても気が晴れません。そこに卓也から電話がかかってきて、自分の勘違いだったと謝られます。いたたまれなくなり、外に出てあてもなく歩きながら、自分の心を見つめ直す「僕」。やがて、卓也の家に向かって歩き出しました。

みんなの意見

「僕」を卓也の家に向かわせたものは、何でしょう。

- ・自分が思っている本当の気持ちを言わないと後悔すると思ったから。
- ・自分が盗ったのに、言い訳をして卓也に謝らせてしまった自分のずるさ。
- ・前までの自分を変えたい気持ち。

今日の授業で学んだことや考えたこと

- ・人の心の弱さは、自分がずるいと分かっているけど、それを受け入れたくないところだと思いました。人のずるいところを注意するのは簡単だけど、自分のずるいところを注意するのは難しいので、私も自分の弱さやずるさを注意しないといけないと思いました。
- ・もし、間違った方向に行ってしまったとしても、自分の弱いところやずるいところを自分で認めるなど、その後に何をするのかが大切だと分かった。
- ・自分の心の弱さに気付いた時にほったらかしにするのではなく、きちんと自分を見つめ直していこうと思った。
- ・人間は、うそをつくことや人のせいにすることがあるけど、自分の弱さを見つけた時に、どれだけ素直になれるかが大切だと感じた。
- ・自分の弱さがどういったものかを理解することが大切だと思った。

人間は誰でも弱い心を持っている。

大切なのは、その弱さと向き合うこと。

